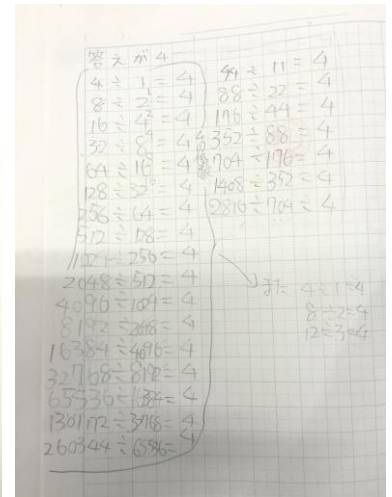
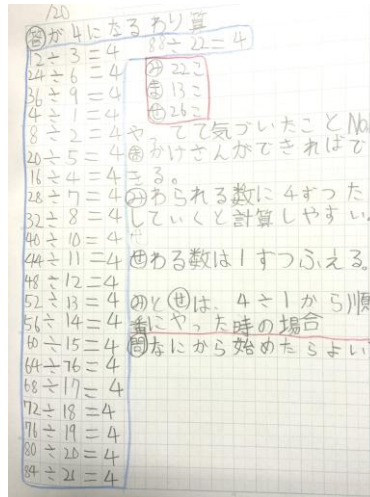


オープンプラン4年生 算数 「わり算の性質（単元：わり算の筆算）」

「答えが4になるわり算を考えてみましょう。ノートには、きれいに書けるといいね。」という投げかけから、この活動は始まりました。

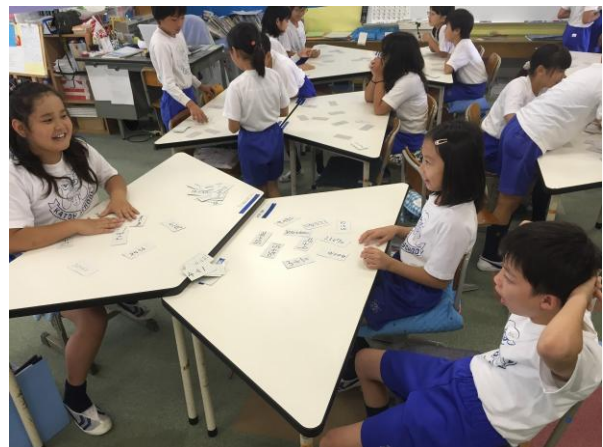
今回のねらいは、「元の数とわる数を両方も等倍にすると答えは同じになる、ということを見出す」ことでした。

子どもたちは、色々な式を考えていきます。最初は思いのままに書いていた子どもも、途中で秘密に気が付くと、「きれいに」順番を考えて書くようになっていきました。



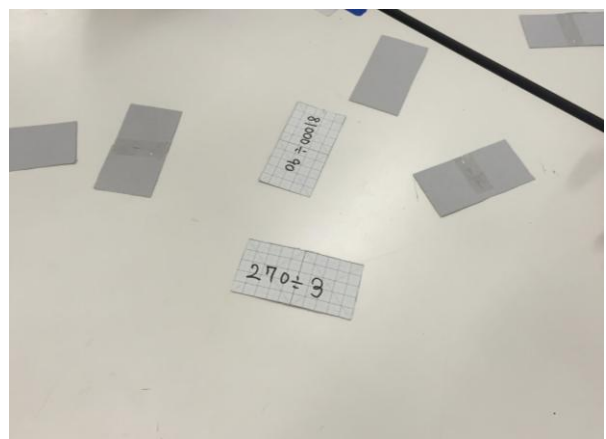
「どんな式がありましたか？今は見えていない人にも、見えるように発表できる人。」と尋ねると、 $4 \div 1$ 、 $8 \div 2$ 、 $12 \div 3$ …。

すると、初めは困っていた人も「見えてきた！」と言い出すようになっていきました。集団で学ぶ良さが見えた瞬間でした。



$40 \div 10$ まで行くと、「先生、違う道もあるよ！」と、ある子どもが言い出しました。「 $400 \div 100$ ！」そうすると、みんなが続きます。「先生、これ無限に続くよ！」と、発見を楽しむことができました。

「これって、4以外でもできるよね！」という声が上がったので、次の授業では今回の発見を使ってカードを作り、神経衰弱をしました。答えが同じになるペアを作れたらゲット！



具体操作は、具体物を扱うことに留まりません。「どうしてそうなるのか」の筋道を、実際に再現したり、能動的に試行錯誤したりしていく過程も具体操作です。実感を伴った理解になるための工夫を、いつも考えています。